



北海道を主会場とする全国高校総体(インターハイ)第20日は10日、札幌市の北海きたえーるなどで5競技が行われた。徳島県勢は、柔道女子団体の生光学園が初戦の2回戦で埼玉栄に3-10で快勝し、ベスト16に進出した。男子個人戦100kg超級は阿波中出身の工藤瑠希(岡山・作陽学園)が準決勝で杉本明豊(神奈川県・東海大相模)に敗れたものの3位入賞を果たした。同じ階級の佐野愛斗(鳴門渦潮)は1回戦を突破し、2回戦で敗退。卓球個人ダブルスは女子の豊永夢乃・引地愛実(徳島商)が1回戦を勝ったが、2回戦で敗れた。第21日は新体操や柔道、重量挙げなど5競技が行われる。

生光学園女子 16強

<p>柔道</p> <p>【男子81kg級1回戦】 板井奏磨(反前勝) 中川柊人(阿波) 川岸園(阿波)</p> <p>仁保秀太(別れけ) 坪根武志(神奈川) 海大(阿波) 桐蔭園</p>	<p>▽90kg級2回戦 香田俊太郎(反前勝) 藤田賢太郎(阿波) (佐賀) 佐 ち (阿波)</p> <p>▽決勝 川端修明(背負い) 中末士(神奈川) 土 龍(東海大相模)</p> <p>▽100kg級1回戦 出河志琉(反前勝) 保川瑠音(阿波) 齋藤・高 ち (阿波)</p>	<p>▽決勝 平野匠啓(増玉) 増 玉(北海)</p> <p>▽100kg超級1回戦 佐野愛斗(合わせ) 生田憲樹(阿波) (鳴門渦潮) 技(阿波)</p> <p>▽2回戦 岡本樹按(優勢) 佐野愛斗(鳴門渦潮)</p> <p>▽準決勝 洋大(阿波)</p>	<p>▽決勝 山口瑛太(北海)</p> <p>▽100kg超級1回戦 生田憲樹(阿波)</p> <p>▽2回戦 佐野愛斗(合わせ) 生田憲樹(阿波)</p> <p>▽準決勝 洋大(阿波)</p>	<p>▽決勝 杉本明豊(神奈川) 轟 投(阿波) 東海大相模(阿波)</p> <p>▽決勝 工藤瑠希(岡山) 阿作希(阿波)</p>
--	---	--	---	---

女子団体2回戦の大将戦で埼玉栄の酒井を攻める生光学園の牛方(右)＝北海きたえーる



初戦完勝も 油断はなく

優勝候補の一角に挙げられる女子団体の生光学園は、3人とも開始2分以内に一本勝ちを収め好発進した。だが主将の牛方は「勝って当然」という重圧の中、初戦で緊張し、全員の動きが硬かった」と冷静に振り返った。初戦の2回戦の相手は3月の全国選抜大会1回戦でストレート勝ちした埼玉栄。「同じ3-10で勝つ」と臨んだ。先鋒(せんばん)木村は流れをつかみ、と序盤から攻めて相手を崩して一気に押さえ込み、横四方面めで一本勝ち。中堅戦に臨んだ2年杉本も開始約30秒で腹包みを仕掛けるなどし、合わせ技一本で勝ち切った。大将の牛方も開

始1分40秒で得意のげき固めを決めた。圧倒したとはいえ、全国制覇を目標に掲げる選手たちからは、反省の言葉が次々と口を突いて出た。牛方は「相手の動きを見過ぎた」、木村は「動きが遅かった」。初のインターハイとなる杉本も「前に出られなかった部分がある」と語った。3人それぞれが初戦で見つけた課題の修正を図り、3回戦に臨む。順調に勝ち進めば決勝まで行われる1日に向け、副主将の木村は「全員が力を出し切り一戦一戦勝ち上がる」。積極果敢な戦いを貫く。(佐々木秋穂)